

竹下復興大臣記者会見録

(平成27年1月8日(木) 16:35~16:45 於) 東京サンケイビル「宮城牡蠣の家」)

1. 発言要旨

なし

2. 質疑応答

(問) 先ほどのご挨拶の中で、まだ復興が順調に進んでいるということですが、進捗具合のほうはいかがでしょう。

(答) 地震・津波の被害のところは大分いろいろ見え始めて、しかしまだまだです。それでもまだまだ福島原発事故の地域は厳しい状況にあります。我々は気を引き締めて、復興に引き続き加速化していくということ、やらなきゃいけないと思っています。

(問) 今回、宮城県の応援に来られたということですが、水産事業を復興しないことには、経済もなかなか上がっていないというようなことでしょうか。

(答) そうです。東北のあの沿岸は、水産業と水産加工業が主たる産業の柱ですから、柱がしっかりしないことには、やっぱり地域の活力が出てきませんので、我々、全力で応援しようと思っています。

(問) 国民の人も、復興大臣の力に期待されていると思うんです。

(答) ありがとうございます。懸命に頑張ります。

(問) この「牡蠣の家」のオープンですが、大臣ご自身、どのように受け止めていらっしゃいますか。

(答) いや、もっと時間がかかるかなと思っていたんです。カキはカキ棚から全部流されちゃいましたから。それを今聞いたら、1年、2年物であの大きさになるというふうになって、ああ、動き始めたんだなということを実感しました。こうやって一つ一つ商品になり、地域の活力につながりという、この積み重ねが非常に大事である、こう思いますので、今日はいいイベントだと思いますよ。

(問) 「牡蠣の家」がどういう場になればいいなというふうに、大臣ご自身思いますか。

(答) 1つは、東北が頑張ってるぞということ、全国の皆さん方に知ってもら。特に首都圏の皆さん方に理解してもら。これは3月まで、長い期間「牡蠣の家」のイベントありますので、そのことを通じて、知ってもらことが大事。それからもう一つは、残念ながら、もう4年近い時間が経って、大震災の記憶の風化というものが、残念ながら進んできておりますので、「いやいや東北まだ大変なんだぞ」ということも併せて知ってもら。そしてもう一回、あの被災に遭われた方々への思いを、もう一度全国民の皆さん方に新たに知ってもらということ、その大きな鍵の1つになればと思っています。

(問) カキの販路の縮小とか、喪失という問題もまだ残っていますが、それは国、復興庁としてはどういうふうにお考えですか。

(答) 一番苦手なんです。役所が売り場を探すというのは、一番苦手。ですから、我々が

できることは、こういうセレモニーを支援していくこと、さらにはユーザーの皆さん方との場を、生産者とユーザーの場を、いろいろな形、例えば「結の場」という方法も1つの方法ですし、例えば異業種間で、いろいろな情報交換の場を設けて、新しい商品を、カキの加工でも、「こういう加工の仕方もあるじゃないか」という、新しい商品の開発といたしますか、そういったものへのご支援をしていくということが、我々がやらなきゃならないことで、今、民間の皆さん方をお願いしていますのは、官ができることは、インフラを整えたり、例えば加工場を造ったり、ここまではお手伝いができるんですが、売り先を探すというのは、これは官の役でできることじゃありませんので、これから民間の皆さん方、あなたたちの出番ですよと。もっともっと活発にいろんな活動をしてください。その結びつける場は我々も作る努力をいたします、というのが、官ができる、残念ながら限界なんですね。やろうと思っています。

(以 上)